

教えて!!
ドクター +
Q&A

Q 慢性腎臓病と心臓病の関係をお教えてください。

A 2002年アメリカで心臓病の患者さんは腎機能の低下に伴い、入院率・死亡率が高いことが報告され、慢性腎臓病(CKD)という病態が提唱されました。日本においてもCKD患者さんは1330万人と推定され、最近、新たな国民病と認識されてきています。CKDとは腎臓に何らかの器質的障害(蛋白尿など)があるために腎臓が1分間に血液をろ過する糸球体ろ

過量(GFR)が60ml/分未満の状態が3ヶ月以上続く状態を指し、外来で尿検査(尿蛋白)と血液検査での腎機能の低下(eGFR)で簡便に診断できます。

CKDが近年注目されている理由の1つは末期腎不全への進行により、透析や腎移植が必要になる事であり、もう1つは心血管疾患(CVD)の発症により健康寿命の短縮や死亡率の上昇に繋がるからです。これは、CKD患者

さんは末期腎不全に進行するよりもCVDで死亡するリスクの方が高く、腎機能が低下していなくてもごく軽度な蛋白尿を呈するステージ初期のCKD患者さんでもCVDの罹患率が増大する事を意味します。つまりCKD患者さんの早期発見、早期治療の介入はより

多くのCVDの発症を阻止する事が可能になります。

このようにCKD患者さんの管理においては腎機能だけに注目するのではなく、CVDによる死亡リスクを考慮にいた上で、全身を診るということが重要と言えるでしょう。検診でCKDを指摘された方は、腎臓専門医だけではなく循環器専門医も受診されることを強くお勧め致します。



神戸大学医学博士。日本内科学会内科認定医。日本循環器学会循環器専門医。日本抗加齢学会正会員。高濃度ビタミンC点滴療法学会正会員。神戸大学病院や民間病院で20年以上多数の心臓ペースメーカーやカテーテル手術をはじめ、生活習慣病や人工透析にも携わる。クリニック開院以来、循環器、呼吸器疾患からエイジングケアまで幅広い年齢層の患者様が数多く来院される。

北村内科クリニック
理事長 北村 秀綱